



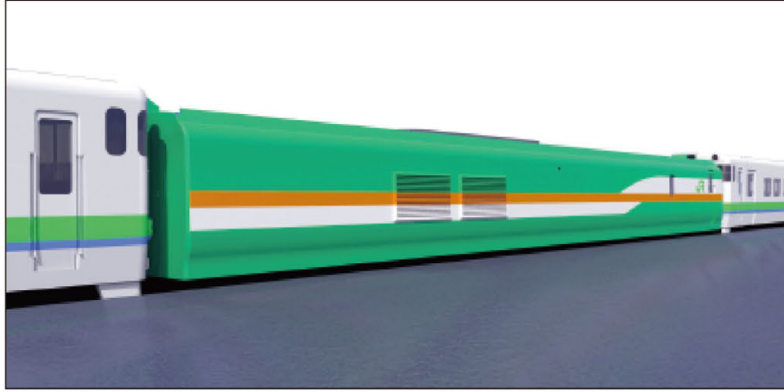
あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

新しい在来線用軌道検測車を導入します！

鉄

道会社の使命でもある安全・安定輸送を確保するためには、軌道、つまり線路の保守管理が欠かせません。



平成29年4月12日、報道発表資料より。

JR北海道では、これまで在来線で運行してきた高速軌道検測車「マヤ34形」の老朽取り替えとして、新型の軌道検測車「マヤ35形」を投入することになりました。測定方法の

変更により、積雪時における軌道変位の検測が可能となるほか、線路等の状況を撮影する機能や、構造物との距離を自動で測定する装置を付加し、効率的な検査体制を実現します。

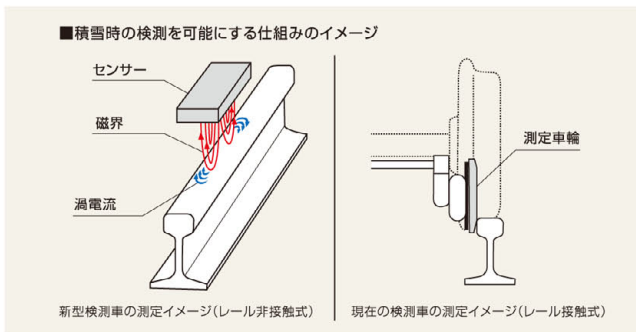
具体的には次の通りです。これまで軌道変位の検測では、測定用車輪をレールに接触させて測定していたため、冬期は測定用車輪とレール間に氷雪がはさま

るという問題がありました。レール非接触式のセンサーを使用する方式に変更したマヤ35形は、積雪時にも軌道変位を測定することを可能としています。

また、線路等の変状や路盤の陥没などを常時収録できるようにするため、前方画像処理装置を搭載しました。

さらに、二年に一度実施する定期検査時や駅ホームの改修時、軌道補修作業の実施時には、構造物との距離を人が専用機器を使って測定していましたが、同軌道検測車への建築限界測定装置の搭載により、光波を利用した自動測定が可能となりました。構造物との距離、軌道中心間隔、道床断面形状等、各種データの取得に役立ちます。

なお、車両外観は、北海道新幹線H5系と同系色のグリーンをベースに、線路沿線を彩る紅葉のオレンジ色、



あるいは雪原の白色が軌道検測車の走行とともに流れ動く様子をイメージしてデザインされています。

今年五月から始まった各種試験は二〇一八年三月まで続けられ、翌四月から運用がスタート。新しい在来線用軌道検測車の導入で、安全・安定輸送の向上に期待が高まっています。